スウェーデン・国は働く人をどうサポートしているか！

愛知労働問題研究所　女性・生活部会
講演会の記録　《2006年3月11日》

講演会のあと、記念撮影

：もくじ：

猿田所長あいさつ・懇談　Ｐ２～３

講演
スウェーデン女性の労働と生活　Ｐ４

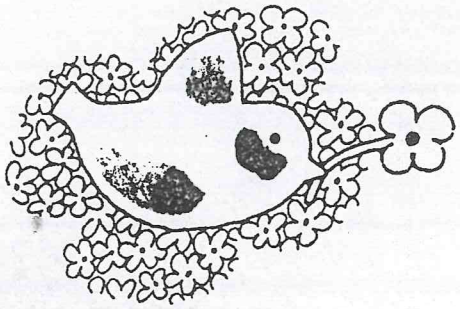
女性と教育　Ｐ５

女性と雇用　Ｐ６

女性と家庭生活　Ｐ７

女性と日常生活　Ｐ８～１０

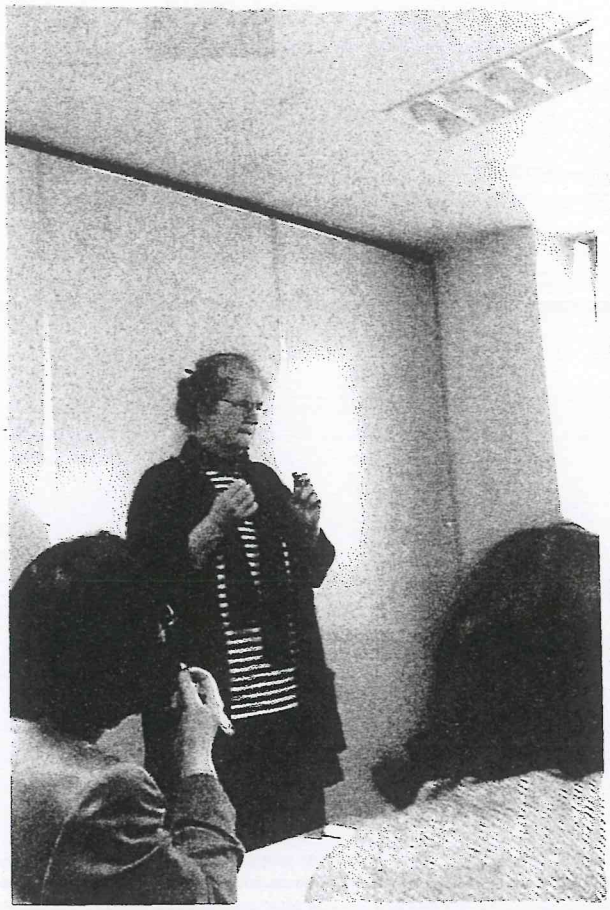
感想・〈駒田富枝・理事〉　Ｐ１１



発行：愛知労働問題研究所　女性・生活部会
住所：名古屋市熱田区沢下町９－３労働会館３０４
電話：052-883-6978　FAX ：883-6958

スウェーデン・国は働く人をどう
サポートしているか

【愛知労働問題研究所・女性・生活部会、講演会　】



カイサ・エルゴートさん

２００６年３月１１日（土）労働会館において講演会が開催され、満席の盛況で熱心に学習が進んだ。はじめに、猿田正機（愛知労働問題研究所所長・中京大学教授）先生から、なぜスウェーデンに関心を持ったのか、日本は高齢化社会になり福祉が問題になっているが、日本は弱者にしわ寄せがいっている。これは逆だ。日本と生産や労働のシステムがこんなに違う国はない。１９０年にわたって戦争をしない国、世界の平和を一貫して追求している国、この国からカイサ・エルゴート（ヨーテボリ大学・リンシェービン大学教授）さんを直接招いてお話を聞くことになった。期待している。

講演の前提として、日本は税金も世帯が単位になっている。スウェーデンは個人単位の社会だ。両性が平等に働いている。従って失業率も全く意味が違ってくる。教育を見ても１４歳までは成績表がない。自由に学んでいる。パブリックセクター（公務労働）の重視の上に民営化がある。労働者の三分の一は公務労働だ。

自然環境の保護にも熱心だ。平和運動はストックホルムアピールのように、国を挙げて取り組んでいる。

労使関係を見てみると、やはり失業はある。やく５％あるが内容が違う。失業補償がある。職業訓練がある。労働時間も日本に比べて７～８００時間違う。バカンス休暇も５週間（職種によって違うが）はとれる。賃金や所得は連帯賃金になっている。

産業別労使関係があって企業別労使関係がつくられる。選挙権、被選挙権は１８歳からある。議員の多くは職業を持っている。みんなが考えることは持続可能な社会、安心して生活できる社会だ。

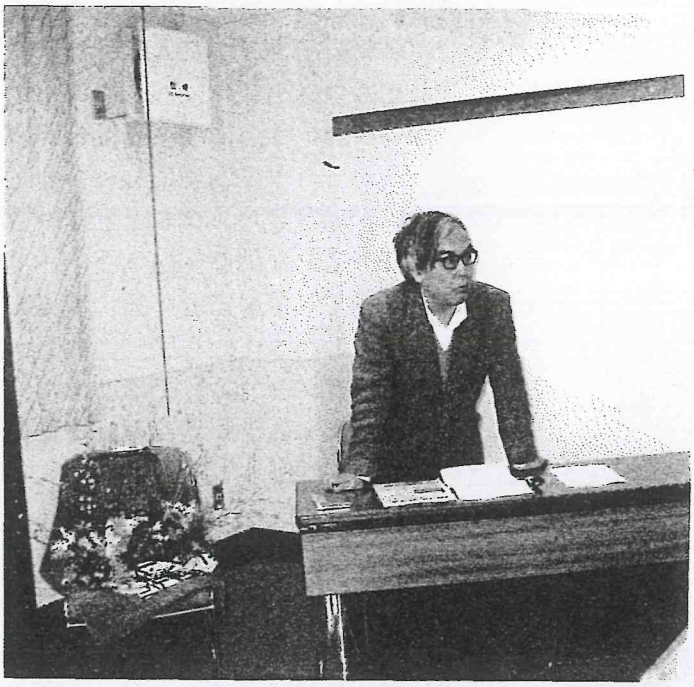
豊かな社会と表面が派手な社会は違う。スウェーデンは落ち着いた地味な社会だ。旅行で行くとホテルも物価も高く感じられるが、そこに住むと全く違う社会がある。

懇談の時間では、男性の育児休暇のことにふれて、法律では１ヶ月とることになっているが、雇い主は家庭で子育てができる様な人材は職場でも役に立つと見られている。と価値観が企業サイドでなく社会から判断される見方を示した。

労働組合の組織率のことについても、若い人はあまり必要に感じていない、何とかなると思っている。失業保険、賃金交渉、など問題にぶつかってから労働組合に入る人が多い。

日本の子供たちがテレビ、パソコン、ケイタイで過ごしていることも、スウェーデンの子供も同じだ。テレビは当たり前、いま、インターネットで新しい刺激を求めている。と話した。

まとめの挨拶で、駒田理事は長時間にわたる熱心な討論に感謝し、これからも社会保障やテーマーを広げて研究会を続けていきたいと結びました・



挨拶する猿田教授

講演した
カイサ・エルゴートさん

通訳して頂いた
ショーン・オコネルさん

講　演　「スウェーデン女性の労働と生活」

カイサ・エルゴート教授
ヨーテボリ大学・リンシェービン大学教授

通訳　　ショーン・オコネルさん

猿田教授はじめ皆さん、お忙しいところありがとうございます。これから「女性の労働と生活」についてお話しますが、最後は自由に質問してください。話の中でびっくりするような状況があれば驚いたまま帰っていただくと困りますのでその点はよろしくお願いいたします。

スウェーデンでは結婚しなくても子供を持つ場合も多いのですが、私の家庭は子供が４人います。私は二人目の子供を身ごもってから結婚したのですが、子供の「姓」はそれぞれ異なります。一人目は「私」の姓、二人目は「夫」の姓、三人目は「私」四人目は「夫」となっています。

さて本題に入りたいと思います。４つのポイントについて統計を表示しながら話しをします。まず①スウェーデンの女性　②女性と教育　③女性と雇用　④女性と家庭生活、そして人生は仕事ばかりではありません　⑤日常生活についてお話します。

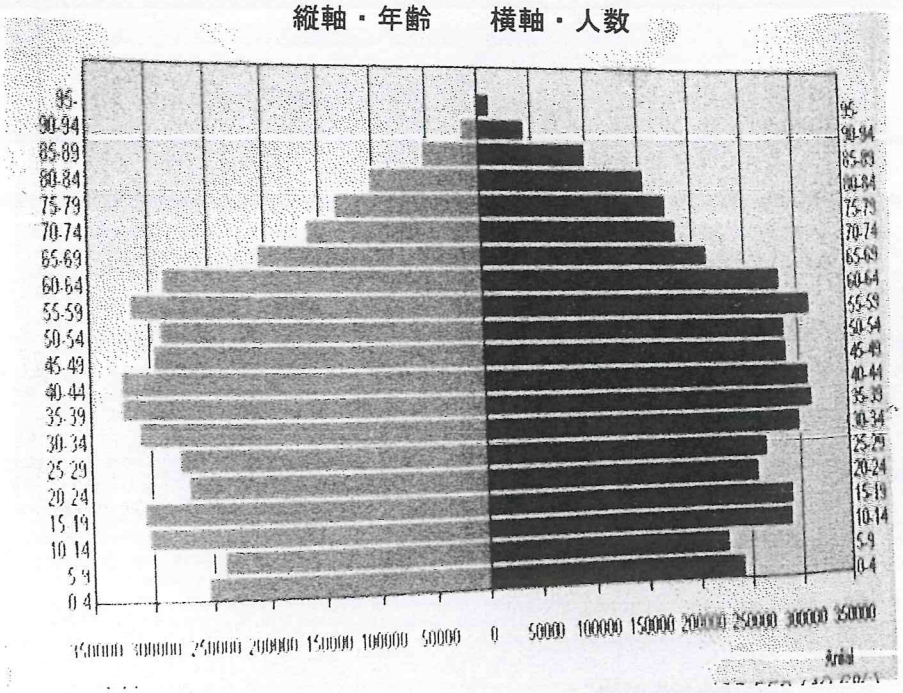
1　スウェーデンの女性

女性スウェーデンの２００５年の人口は約９００万であり決して多い訳ではありません。４０代から５０才大は男性の人口が多いのですが、老後は女性が多くなります。平均寿命は女性８２才、男性７５才です。

出生率は１９９０年２．１人だったが、２０００年１．５人となり、２００５年１．８人となりました。

縦軸・年齢　　横軸・人数

男性



女性

女性の出産年齢は２０年前２５才～２９才でありましたが、現在（１９９０年移行）では年齢がアップして３０才～３５才となっています。

スウェーデンの女性の結婚年齢は１９８５年～１９９５年までは２５才～２９才くらいであったが、現在は年齢アップして、３０才～３５才となりました。こうした状況になった考え方は「しっかりと教育を受けて社会に出て、キャリアをすごく大切に考えることからです。キャリアによって、育児休暇や手当ても変わって来るから」です。

2　女性と教育

在学人口の２５％が小学校、５０％が中学、高校、２５％が大学です。小学校からストレートに進めば２０才、その後生涯教育にも力を入れているし、休学したり、退学したりもう一度中学高校などへ戻って資格を取得するために教育を受ける場合もあります。労働人口で見ると大学卒業は女性が多い。女性は教育熱心です。大学院になると男性が多くなっています。

また高度な技術を必要する工業大学（女性２０％）やランクの高いビジネススクール（女性３０％）では女性は少ないことが分かります。詳しく説明しますと、２００３年～２００４年大学へ入学した女性は５８％で、また最後まで教育を受けたい気持ちが強い女性は６３％でした。男性は大学在学中でも「いい仕事のチャンス」があれば中退して仕事へ向かう人もあります。

大学の博士課程に在席した女性は、５０％であり２００４年に博士を手に入れた女性は、４７％であった。この状況をみても女性は教育に熱心であることがわかります。。

Men in the Swedish work force **are in general lower educated** than women
But:
Men still **dominate** at **post graduate** level.

2004	Women	Men	Total
Elementary school	41%	**59%**	100%
Secondary school	46%	**54%**	100%
University graduates	**54%**	46%	100%
Univeristy post graduates	33%	**67%**	100%

大学卒業者の状況

3　女性と雇用

教育がどんな結果につながるのかを見ますと労働人口の４６％が女性です。

＊就業率は１６才～６４才までの女性は７６％、男性は８０％となっています。

＊結婚や同棲している女性の８２％／男性の８９％が働いています。

＊独身者の就労は女性６４％，男性６５％となっています。

調査の結果驚いたのは７才以下の子供をもつ女性８０％、男性９４％と多くの人が働いている事でした。

＊給与は２００３年平均で１６才～６４才の女性の平均は男性の８０％、（パート、フルタイム）異なる要因は女性の方が長く育児休暇を取る事が影響しています。もう一つの理由としては高い教育を受けていない所が給料が低い所に当たる。給与関係で男女差のない女性の年代は２０才～２４才であり男性の９０％に当たります。給料に男女差がない。平等と考えているは４０％～６０％で職種は保育園、幼稚園、学校、介護施設などです。＊失業率は女性は男性より低く、仕事を失ったら更に高い教育をうける努力をしていることです。

＊産業部分をみますと、男性は農業、製造業、貿易、卸売などの職業に就いていますが、女性は教育、研究、介護、社会的ケアー、などの職業に就いています。男性は昔からの職業が多いのですが女性はこれからの産業にしっかりと足を固めています。

＊病気をした時の「病気休暇」はダントツ女性のに方が多いのですが最初の１４日は事業主が保障します。それにプラス保険があります。なぜか、病気で休む人が多いことは職場環境に問題がある事であります。

２００２年スウェーデンの不況の時代、労働人口の全体２１％が病気で休暇を取った。何とかしなければいけないと政府は１４日＋保険で保障していますが、それとは別な「保険」でカバーしました。このようにいろいろな保険のある環境は恵まれていますが、残念なことに「悪く利用してしまう」人も新聞報道されたりして政府も議論をして改善しなければならないと検討をしている所です。

There is a **segregated labour market** in Sweden according to genc
Women dominate in education and health & social care.

	Per cent of all employees	men %	women %	tot n
		in each industrial branch		
Agriculture	1.7	**79**	21	71
Manufact. mining	18 1	**74**	26	738
El. gas. water supply	1.0	**79**	21	39
Construction	5 8	55	45	235
Wholesale trade trspt	18 5	**62**	38	755
Financial sector	13 2	58	42	538
Education, research	11 2	27	**73**	457
Health, social care	16 5	16	**84**	674
Hotel restaurants	6 9	44	56	282
Government org	5 7	47	53	232
	100			4 021

男女の就業状況

4　女性と家庭生活

スウェーデンでは結婚していない女性２１０万人、男性２４０万人で多くは２０才代です。結婚している男女ともに１５０万人、離婚して再婚しいない女性５０万人、男性４０万人です。結婚の推移は１９５０～６０年には減少しましたが、１９８０～９０年には新しい法律によって結婚した方が「経済的によい」と言う事で増加しています。

いま若い人達には結婚に対する願望があり豪華な結婚式を挙げる人達が増加しました。

＊「私の子供（長女）は子供を産む前に結婚しました。」

＊シングルマザーの問題では２００４年の調査で１才～１７才以下の子供を持つ母親が８２％で、平均０才～２４才以下の子供を持つ母親が全数の７９％となっています。

＊育児休暇を取る男性が増加してきています。２０００年、女性は８７，６％、男性１２，４％，であり２００４年になると女性８１，３％、男性１８，９％と増加してきています。さらに詳しく説明しますと育児休暇は最長１年取得する事が出来ます。休暇中は保険で保障します。

＊その他子供が病気になった時誰が子供の面倒を見るのかでは、女性の方が多く２０００年では女性６６％、男性３４％でしたが２００４年では女性６４％、男性３６％と男性が休暇を取ることが少し増加してきています。

2.4 million men and 2.1 million women – most of

Married/cohabitants 1.5 million men and 1.5 mill

Divorced and not remarried 0.4 million men and

Year	Marriages
1956/60	53 000
1966/70	51 000
1976/80	38 000
1986/90	52 000
1996/2000	32 000
2004	39 000

結婚の推移

既婚者も独身者も

Per cent of the total population of women and men (16-64 years) participating in the labour force

	Women	Men
Total	76%	80%

There is a higher percentage among married/cohabiting in the labo

Married/cohabiting	82%	89%
Single	64%	65%

The **highest labour force participation** is found among **men wit** younger than 7 years

With children under 7 y	80%	94%

5　女性と日常生活

ここでは日常生活の男女を対比して説明します。

対象は女性５００人、男性５００人で「日常生活の時間の使い方」を平日１日を日記にしたものです。年齢は１０才～９７才とし５００人２００世帯です。ここで大切なのは

①１日中のどんなことでも重要でありすべてを書くようにする事。なぜか、日常生活を把握するのに欠かせないものである事

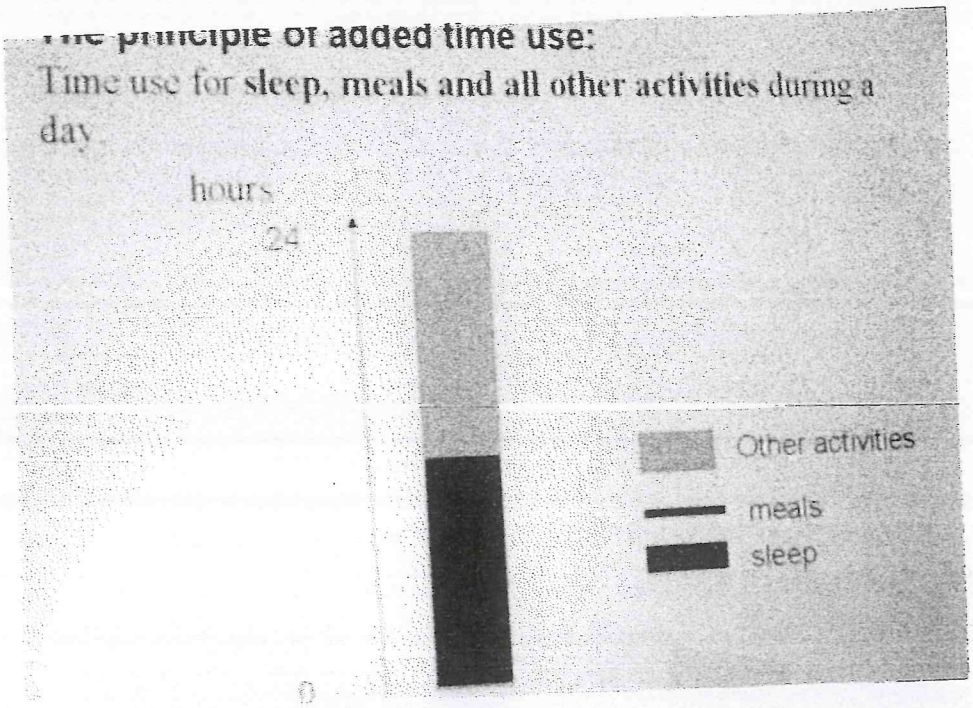
②家庭での男性と女性はお互いに頼り合ってよい日常生活を送るのにそれぞれ必要なことをやらないといけない１人が抜けると他に負担がかかること。

③男性と女性の家庭での貢献度が解る。

④あくまでも個人の活動を中心にそれをベースに「家庭でのレベル」「グループでのレベル」「全人口なレベル」を個人の視点からみて解釈が出来るからです。

＊１日２４時間を割り当てると、８時間睡眠・２時間食事（朝・昼・晩）残りはその他の活動となります。その１日を分析すると・寝て・起きて・食べて・何かやって・食べてとなります。活動のリズムが解ります。

＊スウエーデンの女性は日常生活をどのように送っているのか日常生活でのそれぞれのカテゴリーがあります。



睡眠時間・食事時間・勤労その他

①寝て起きて、食べてなど自分のための時間
②子供に関わること、また老後のケアーなどの時間
③家（家の掃除などや庭の手入れ）や車などに関わる時間
④自分のためのもの、買い物、教育を受ける、社会活動、リェクレーション、移動の時間も含めた時間、（国によっては、栽培や狩りなども含まれる）

＜例ーつの家庭の活動パターン＞

＊平日の活動　ー母親である女性の例ー（図表で説明）
１２時に就寝、途中で起きる（乳児に哺乳など）、起床してケアー、朝食、移動して買い物（スーパー）など、掃除洗濯など、昼食準備・昼食、自分のケアー・レェクレーション夕食準備、後片付け、休憩、子供のケアーなど、自分の時間一日を振り替えるなど、就寝・この母親の１日の動きと父親、息子（乳児の兄）との対比をして見ました（母親の仕事は多い事が図表で色分けによって分析できる）
＊週末の活動（土・日曜）
・朝食は母親と作る。他息子は比較的落ち着いている（１回、買い物をする自分のお菓子）父親は家の中で少しづつ動いている。
・父親ー会社に書類をとりに行く、食事に関わることでは、朝食の皿洗い、昼食の食べ物を買う（２回出かけているが１回はスーパーで長く買い物、その後１回は忘れた物を買い足して来た）昼食を息子と共に作る、皿洗いをする。（その間母親はコーヒーを飲んでくつろいでいる）夕食は３人で協力しあって調理をし３人で皿洗いをする。その後デザートを食べる。
週末の過ごし方は、最近インターネットの普及で家に居場所がないという議論もありますが家でしっかりと過ごしている事がわかります。以上このようなパターンはスウェーデンでの一般的な家庭の在り方だと思います。

＜男女各５００人を基礎とした２４時間の男性・女性の活動の違い＞

＊図表は縦軸に時間（２４時間）を表し、横軸に年齢と男女別を置き、色別で労働・学校家事・食事・育児（介護）・自分の時間などを縦の棒線グラフで時間を表示している（平日・週末に分けて調査）
＊年齢は１０才から８５才の調査をみてポイントを説明します。
・女性は男性の労働時間より短いのはパート労働が入るためです。子供は学校に行くための時間、夕食は長時間にわたっての分布を示していますが平日は午後６時前後となっています。
・平日の食事の仕度は女性が多い、特に昼食は女性であるが、フルタイムで働いている女

性は当然昼食の仕度はしていない。朝食と夕食は男性も女性協力しあっています。

・週末、女性が食事を作っていることも多いことが見られますが、高齢者になるほど男性はやらなくなります。また、家事や庭いじりは週末を使っています。年配の男性、女性も何かやっています。１０代の若い女性も何かやっていますがが、若い男性は何もやっていないのが解ります。・平日、退職した男性、女性、多くの若い女性も何かやっている事も解ります。

・作業分類すると（平日）

家の掃除－スウェーデンの人達は週末の昼間に家の掃除をする。しかも男も女も協力しあっている。

洗濯・たたみ・アイロン掛け－殆ど女性、週末は洗濯物を洗濯機に入れるのは男性

物を創る－女性は年齢に関係なく創ったりしている、また週末になれば男性も創るが退職した人に集中している。木・布・金属（フェンス）など昔の伝統を守っている。

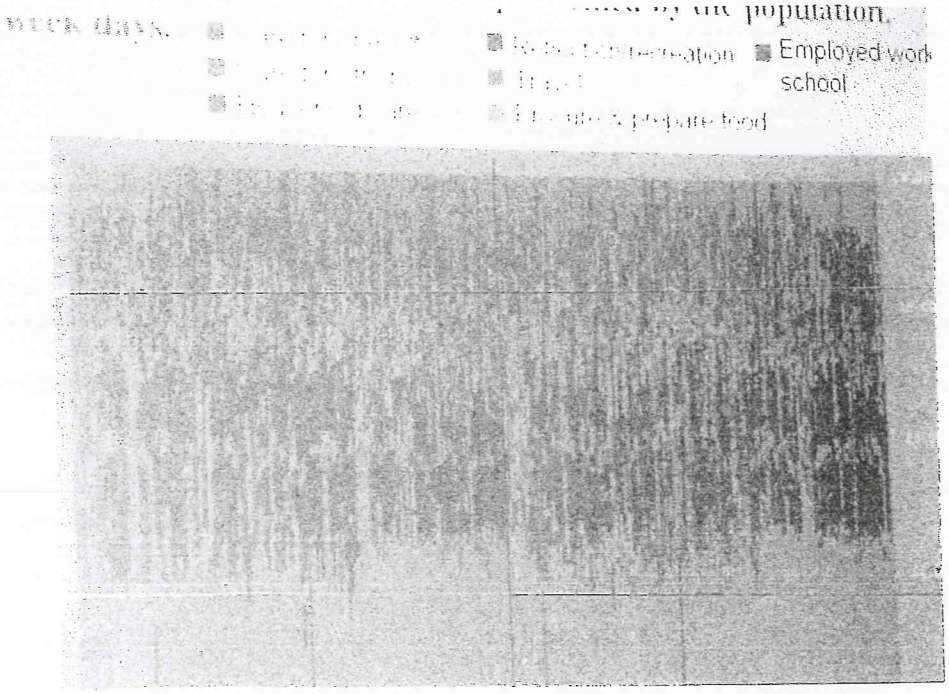
子供に食事を作って食べさせているにはは殆ど女性でした。なお１日の内どれだけ会話したかなども調査しました。車での移動は若い男性、中年の男性が多い。

全体として若い男女は歩く事に時間をかけている。トータルとして時間の使い方を見ると

①睡眠　②仕事・学校　③テレビを見る事となっていました。特にテレビは、平日・週末共に若い男女が多いことも解りました。眠る時間は若い人ほど早く寝ています。

スウェーデン人は週末には長く家で過ごすことが解りました。

これで終了します。　どうもありがとうございました。



家庭生活の時間

感想

私たち女性が労働や、地域の場でも長年の運動の中で「家庭も職場も大切だから－人間らしく働き、生きるための要求は２４時間」でした。そして原則的には社会・職場、家庭の三つの平等を目指すこと土台に運動がさまざまな形で展開されてきた歴史があります。そのような思いがしっかりと裏打ちされた今回の講演の内容でした。

男女各５００人、２００世帯を基礎にしたデータを使った講演内容は説得力がありました。パワーポイントを使って、一日２４時間を軸に家族（１０才から９１才まで）一人ひとりの行動パターンを拾った図表は一目瞭然、人々の暮らしが浮き彫りにされました。

女性ならではの視点で、家族の個人単位の動きを辿りながら描く豊かな洞察力と、暖かなまなざしに励まされました。

講演後の交流でカイサ・エルゴートさんは参加者からの育児休業の質問にふれながら、雇主は家庭で子育てができる人こそ職場でも役に立つと答えると一瞬会場からどよめきが起こりました。「家族的責任」を果たすこと「権利を行使する」ことは一人の人間として当たり前の要求だと、今あらためて新鮮に感じました。

日本の現状は国民を「勝ち組」「負け組」と名付け対決させ、政治の責任までも「自己責任」と言ってはばからない。また、「権利を叫ぶ」だけでも排除され、あらゆる面での格差が広がっている昨今、参加者からも口答で「スウェーデンの大方の家庭では家族そろって夕食を午後６時前後にとっていることは私たち運動のスローガンだった」「こんなに労働者がずたずたにされている現状をもう一度考える機会を与えられた」「時間がなくて残念だった社会保障の内容などもう少し聞きたかった」など感想が寄せられました。この学習会から学び引き続き女性労働・生活問題など研究活動を深めて行きたいと思います。

終了後カイサ・エルゴートさんとコーヒータイムを取りました。知的で暖かく、包容力のある素敵な女性でした。バックの中から大切そうに取り出した可愛い「孫ちゃん」の写真を見せながら嬉しそうな笑顔はすっかり「お祖母様」の顔に変身していました。その写真の一枚にしっかり赤ちゃんのお世話をしている若きパパの（娘さんの夫）の姿が微笑ましいものでした。心から更なるご活躍を願ってやみません。

中京大猿田先生はじめ大学研究者、スウェーデン研究の皆さん。愛労連の各労働組合女性部のみなさん。ありがとうございました。
会場生けられた草花が雰囲気をかもしだしていました。これもありがとうございました。

駒田富枝